

安心して快適な次世代ユビキタスネットワークサービスを目指して

情報基盤ネットワーク研究部門

いつでもどこでも情報ネットワークにアクセスし、さまざまな情報を自由に利用可能なユビキタスネットワークがいよいよ現実のものになってきました。大学における情報ネットワークにおいても、先端的な情報基盤技術を取り入れ、快適な研究・教育・学習環境を構築することが求められています。

情報連携基盤センター情報基盤ネットワーク研究部門では、既設の名古屋大学キャンパス情報ネットワーク（NICE）の管理・運営はもちろん、次世代のキャンパス情報ネットワークを支えるべく情報基盤技術やネットワークサービスに関してさまざまな活動を展開しています。

情報ネットワークは、研究・教育活動を支える重要なインフラとして、すでに欠くことのできないライフラインになってきました。本研究部門では、既存のネットワークの効率で安全な運用を行うとともに、次世代のユビキタス情報基盤に関する研究を推進しています。また、利便性を追求するのみでなく、安全性、健全性を実現するために、名古屋大学情報セキュリティガイドラインの制定にも深く関わりを持っています。

また、新しい情報ネットワークサービスを目指した実証実験として、平成14年2月から、40カ所以上に無線基地局を導入して、キャンパスワイドモバイルネットワーク実証実験（<http://www.wnet.itc.nagoya-u.ac.jp/web/>）を推進しています。



実証実験用の無線基地局

モバイルネットワーク実証実験においては、名古屋大学シンポジオンホールで開催されたWebCTユーザカンファレンスや国際会議、VBLベンチャーホールにおいて開催された研究会等において、実験的に無線ネットワークサービスを提供し、好評を得ています。今後も、要望があれば、無線ネットワークサービスを実施していく予定です。興味のある方は、上記URLをご参照ください。利用方法については、前号のセンターニュースにも記載されています。（Vol. 2, No. 2, pp.117-pp.120）さらに、新しいネットワークの実験的利用としてIPv6の利用実験を行っており、通

信・放送機構（TAO）が設置した実験ネットワークへの接続サービスを実施しています。

また、社会連携活動として、地域との間での情報交換や、民間との共同プロジェクトの推進や連携を目指し、「名古屋大学新世代ネットワーク研究会」という勉強会を、近隣の大学や民間企業の方々と定期的開催しています。この研究会では、新世代のネットワークに関する最新の情報

を、互いの情報交換や外部講師を通じて獲得することを目的にしています。これまでに、すでに5回開催し、のべ100名以上の方が参加されました。

また、本センターは、東海地域の学術ネットワークのハブとしての役割も果たしています。この役割をより積極的に果たすために、本部門では、本センター長を会長とする中部アカデミックネットワーク検討準備会を組織し、その中心メンバーとして、東海地域のアカデミックネットワークの構築を推進しています。中部アカデミックネットワークは、東海地域の大学間で、単位互換などを想定した遠隔講義やe-Learningの推進を実施することを目的としています。

情報基盤ネットワーク研究部門は、宮尾克教授、河口信夫助教授、山口由紀子助手の3名で構成されています。宮尾教授は、人間工学、医療情報学、ヒューマンインタフェースに関する研究を推進しており、ケータイ、カーナビ等の視認性や操作性についての研究や、医療情報ネットワークや、外国人や障害者のための情報サービスの研究を推進しています。



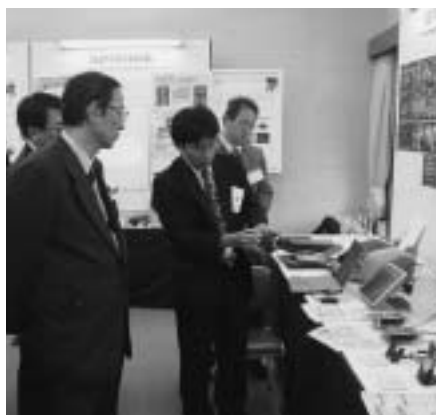
構築中のスマートルームの様子

河口助教授は、モバイルコミュニケーション、ユビキタス情報システムなどの研究を推進しており、最近では、民間との共同研究を積極的に行っています。また、先端技術共同研究センターのインキュベーション施設に研究室を借り、スマートルームの実験室を構築しています。

スマートルームでは、マルチディスプレイや多様な音源、カメラ、マイク、センサなどを効果的に組み合わせ、人の生活を支援する手法を検討しています。また、先日、京都で行われた産学官連携推進会議にも情報連携基盤センターとして出展し、企業との連携の状況について報告をしてきました。また、山口助手と連携し、自動車内や室内、屋外など、さまざまな場所で利用するヒューマンインタフェースに関する研究も推進しています。

また、21世紀COE「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」(研究代表者 末永康人)にも参加しており、その情報基盤を支える役割を果たしています。

将来にわたり、学内情報ネットワークサービスはもちろん、学外との協調を進めながら、より高度な情報基盤ネットワークの開発と提供を推進していきたいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



細田大臣(科学技術制作担当)に展示内容を説明する河口助教授

(かわぐち のぶお：名古屋大学情報連携基盤センター情報基盤ネットワーク研究部門)